

現場見学で見た職長の姿に憧れ、  
鉄筋職人を目指して入社。



Tsurumaki

鶴巻

Seiya

成哉

鉄筋職人

永和産業株式会社

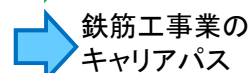
職歴2年  
(平成8年生・20歳)



18歳

鉄筋工事業  
会社へ入社

キャリアパス凡例



### 仕事に必要な研修受講、資格取得を経て現場へ出る

【これまでのキャリアパス】

普通科の高校だったので建設業について全く知識はありませんでした。部活の先輩が鉄筋工事業に就職したことがきっかけで、先輩に話を聞くうちにどんな仕事なのか興味をもちました。就職先を検討している時に、会社の工事現場を見学させてもらい、建物の床や壁の中には鉄筋があり、自分たちの生活を支えていることを知りました。その現場で、職長がとても素早く鉄筋を結束している姿に憧れて鉄筋工事業への入職を決めました。

就職してまずは工場で鉄筋の太さや重さを覚えました。次に富士教育訓練センターで鉄筋工事の基礎と必要な労働安全衛生法の資格を取得し、6月頃から現場の仕事に入りました。最初は道具や鉄筋の長さ等、分からないことが多くて大変でしたが、先輩達に教えてもらい覚えていきました。現在は仕事も任せてもらえるようになり、充実した毎日を過ごしています。

### 自分の仕事が地図に残り、多くの人達に使ってもらえる

【現在の仕事の魅力】

鉄筋工事業の魅力は、自分の携わる仕事が地図に残り、多くの人達に安心して使ってもらえるということです。屋外作業なので夏の暑さはつらいこともありますが、空調服なども導入されて、職長がチームの体調もマネジメントしてくれるので、安心して仕事ができます。

現在は現場で工事の準備や段取り、応援の職人さんたちとの調整をしながら鉄筋を組んでいます。今後の目標は、技能を上げてリーダーの役割を担えるようになりたいと思います。まずは1級技能検定の組立・施工図の両方を取得することを目指して、現場で経験を積み重ねていきます。

### 無理はさせないので安心して働ける

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

建設業というと怖い、つらいなどのイメージがあり、不安に思うことがあるかもしれませんが。自分も普通科の高校であり、同様の不安を持っていましたが、先輩達は優しく指導してくれるし、決して無理な工事は担当させないなど、安心して働ける環境であり、辞めたいと思ったことは一度もありません。まずは鉄筋工事業という仕事を知って欲しいと思います。そして、興味がある方は是非安心して入ってきて欲しいと思います。

2年でサラリーマンを退職、  
鉄筋工事の面白さを知り、鉄筋職人を目指す。



Matsuo

松尾



Ryutaro

隆太郎



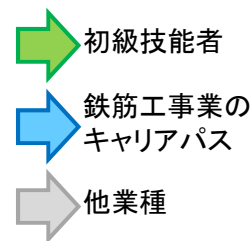
鉄筋職人

株式会社西村工業所

職歴2年  
(平成2年生・26歳)



キャリアパス凡例



## 仕事に必要な研修を受けてから現場へ

【これまでのキャリアパス】

父親が鉄筋職人であったが、職人に対するイメージが悪かったため、鉄筋工事に対する興味はありませんでした。大学卒業後、建設業とは関係のない企業でサラリーマンとして働いていましたが、給料が安かったため、24歳で退職して実家に帰りました。

実家の加工場で3週間ほど手伝いをしてみると案外面白く、鉄筋職人になるのも良いかなと考え始めたところ、父親から一人前の職人として育成する仕組みを持っている企業として現在の会社を紹介してもらいました。

入社後は、労働安全衛生法の資格取得や加工場での加工研修など、現場で働くための基礎を修得しました。現場に配属後はOJTで指導してもらいながら、壁の鉄筋結束など、少しずつ任せてもらえる仕事が増えてきています。今年受検予定の2級技能検定を始め、将来は1級技能検定や登録基幹技能者などの取得を目指して技能・技術を身に付けていきたいと考えています。

## 自分の仕事が地図に残り、多くの人達に使ってもらえる

【現在の仕事の魅力】

最初の現場が豊洲新市場であったため、先ず現場の広さ、大きさに驚きました。梁の鉄筋を地面で組んだりしていても、自分が何をつくっているのか分かりませんが、徐々に組み上がり、建物になっていく様子にとっても興奮しました。

鉄筋は自分で組んでいくため、きれいに組めた時や納まった時などに仕事を通じて自分が上達していることが分かり、楽しさとやりがいを感じられます。

自分は喋ることが多少苦手ですが、先輩達を見ていると、現場でのコミュニケーションはとても大切だと思います。しっかりとコミュニケーションが取れる職長を目指して努力したいと考えています。

## きついこともあるが、辞めようと思ったことはない

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

職人は仕事が始まる前に現場まで行かなければならないため、朝が早いです。自分も朝が苦手で、身体が慣れるまでは大変でした。

それ以外にも力仕事のため、もちろんきついこともあります。辞めようと思ったことは一度もありません。大きな仕事の楽しさ、やりがいがあると感じています。



教育訓練体制が整う企業の社員技能者として、  
3年で中堅技能者となる。



Orido  
織戸  
Shota  
翔大

鉄筋職人

株式会社小黑組 施工部 (施工部若手のまとめ役)

職歴3年  
(平成5年生・23歳)



18歳

19歳

22歳

内装工事業

鉄筋工事業  
会社へ入社

● 2級鉄筋施工技能士 (組立)

キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 鉄筋工事業の  
キャリアパス

➡ 他業種

## スカイツリー建設プロジェクトに興味を持った

【これまでのキャリアパス】

### 多くの人が注目するプロジェクト

実家が内装工事業を営んでいました。元々建設業や職人という世界が身近にある環境で育ったこともあり、高校卒業後は自然と内装職人として仕事を始めました。しかし、親方と人間関係が上手くいかず、すぐに辞めました。そんな中、現在の会社に勤務している高校時代の友人から、東京スカイツリーの工事の話を知りました。多くの人から注目されるプロジェクトに携われることから鉄筋工事業という世界に興味を持ち、鉄筋職人としての一歩を踏み出しました。

### 資格取得を機に仕事への意識が高まった

3年前に施工部が設立され、社員技能者一期生として入社しました。富士教育訓練センターで2週間ほどの初期教育を受け、現場では先輩方の指導を受けながらOJTで鉄筋組立作業を行っています。22歳で資格取得(2級鉄筋組立技能士)を機に、仕事への意識が高まりました。現在は施工部のまとめ役を率先して努め、皆で成長していけるよう頑張っています。

## 仕事の中で得られる達成感と自身の成長

【現在の仕事の魅力】

屋外作業であるため、夏は気温も高く、鉄筋が熱を持つので体力的にきついです。空調服などの暑さ・熱中症対策が導入されており、負担は軽減されてきています。

自分が担当していた物件が竣工し、施主様に引き渡され、利用されているところを見ると、「自分の仕事が皆の生活を支えている」という達成感があり、大きなやりがいになっています。また、経験を積んでいくことで、前の現場で出来なかった作業が出来るようになった時など、自分で成長していることを日々実感でき、嬉しく思います。

## 専門工事業の魅力はものづくりの達成感と喜び

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

鉄筋工事をはじめとする専門工事業の魅力は、多くの職人が協力して一つの建築物をつくるというものづくりに関わることです。自分が組んだ鉄筋が建築物を支え、多くの人に使われることで、大きな達成感と喜びを感じることが出来る仕事です。

# 一度は鉄筋工事業を離れたが、再挑戦で職長、登録基幹技能者となる



Tanaka Manabu  
**田中 学**

## 鉄筋職人

永和産業株式会社 職長

職歴17年  
(昭和57年生・34歳)



15歳  
鉄筋工事業  
会社へ入社  
[工場→現場]

18歳  
転職  
(他業種)

22歳  
鉄筋工事業  
会社へ入社

25歳  
職長

33歳  
登録基幹  
技能者

●1級鉄筋施工技能士(組立)

●登録鉄筋基幹技能者

●1級鉄筋施工技能士(施工図)

キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 鉄筋工事業の  
キャリアパス

➡ 他業種

### 一度は鉄筋工事業から離れたが、再挑戦で職長に

【これまでのキャリアパス】

中学卒業後、上京して就職したところがたまたま鉄筋工事業の会社でした。工場勤務から鉄筋工事の基礎を学び、16歳から現場に出られるようになりました。18歳頃に一旦は離職して様々な仕事を体験した時期もありましたが、ものづくりが好きで達成感ややりがいの魅力を感じて、22歳で再び鉄筋工事業の会社へ就職しました。25歳で小規模なオフィスビルの職長を任せられ、今も職長として現場の職人をまとめています。

平成22年に1級技能士(組立)、平成27年に登録基幹技能者、平成28年に1級技能士(施工図)を取得しました。

現在は主任技術者として現場に常駐して施工図を作成しつつ、後輩への指導・育成や元請との打合せ、現場パトロールなどの職長業務、鉄筋組立工事などを任せてもらっています。

### 日々の多くの場面で達成感

【現在の仕事の魅力】

鉄筋工事業の魅力は建物が建った時の達成感はもちろん、元請との打合せや現場のマネジメントが上手くいった時など、日々の多くの場面で達成感が得られることです。

これからもっと成長して、より大きな現場を一人で任せてもらえるような信頼される人間になりたいと思います。そのために品質管理や現場管理など会社から求められる役割を果たすこと、自分の担当現場での怪我やミスをなくして、若手の育成にも力を入れたいと思います。

### 職人の社員化で、待遇は良くなっている

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

建設業界全体で職人の社員化が推進されていて、一般的な会社員と比較しても遜色のない待遇で仕事ができます。

その中でも鉄筋工事はやってみると案外面白い仕事です。もし、鉄筋工事に興味を持って一步を踏み出してくれたなら、自分たちにできることは全て協力します。



建設業経験ゼロから3年で職長、10年で登録基幹技能者となり、大規模現場の統括を経験。



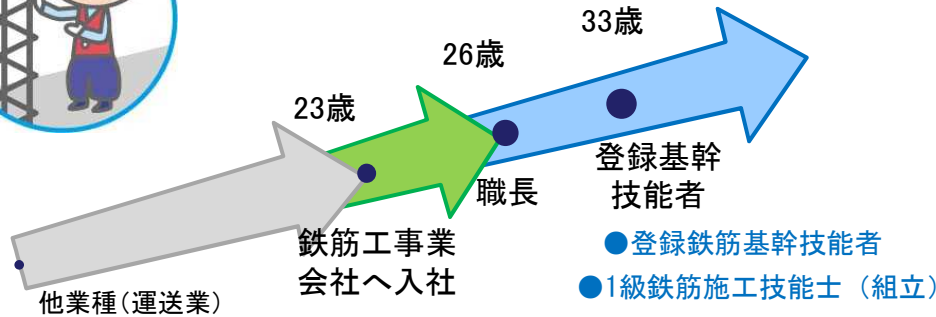
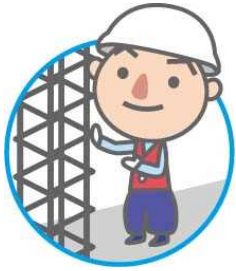
Okurano  
**大倉野**

Yuki  
**裕樹**

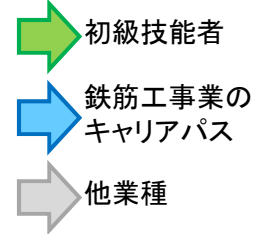
**鉄筋職人**

株式会社西村工業所 職長

職歴18年  
(昭和51年生・40歳)



キャリアパス凡例



### 他業種から鉄筋工事業へ入職、経験を積み職長へ

【これまでのキャリアパス】

鉄筋工事業に就職したのは23歳でした。それまで運送業をしており、鉄筋のことは全く知らず、興味もありませんでしたが、家族の伝手で現在の会社を紹介してもらいました。

いざやってみると奥深い世界で、また、現場では他の職種を含めた多くの仲間に出会える業界であったことから、鉄筋工事の魅力にはまりました。

3年ほど経験を積み、初めて職長として現場を任せてもらいました。つらかったこともありましたが、周りの人たちにサポートしてもらいながら、加工帳作成から施工まで何とかやりきったことは、自分の背中を押してもらえたと感じています。

31歳で1級技能士(組立)、33歳で登録基幹技能者を取得し、現在は主任技術者として元請との打合せや技能者のマネジメントを行うとともに、施工品質のチェックなどを担当しています。

### 品質・安全・コストの指示が上手いと気持ちが良い

【現在の仕事の魅力】

鉄筋工事業は魅力だらけの世界です。特に品質・安全・コストが、自分の指示により、会社として上手くまわった時は本当に気持ちが良いです。鉄筋職人130人を統括する職長を任された時は、職人への指示、元請との打合せが続き、体力的につらいこともありましたが、任された責任感と仕事の面白さでやりきった時の達成感は良く覚えています。

今後は、より高度な技術やマネジメントにより、企業としてお金を稼げる方法を検討し、会社や技能者に貢献できるようにしていきたいと思っています。

### 仕事への姿勢やマナーが徹底した格好良い業界

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

現在の建設業の職人は、仕事に対する姿勢やマナーが徹底しており、とても格好良いと思います。

決して楽な仕事ではありませんが、現場では日々仕事の中で組み上がっていく達成感や工事中に上から見る風景、計画段階では自分の提案や目標設定など、日々の仕事や役割の一つ一つに発見や達成感があります。そのような鉄筋工事の面白さ・楽しさを是非知って欲しいと思っています。

経験年数4年で職長となり、  
現在は技能職チームの責任者として施工班を統括する。



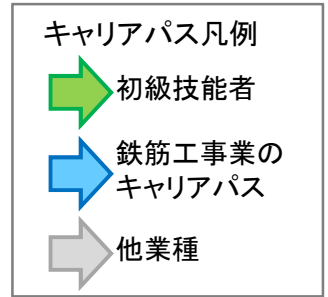
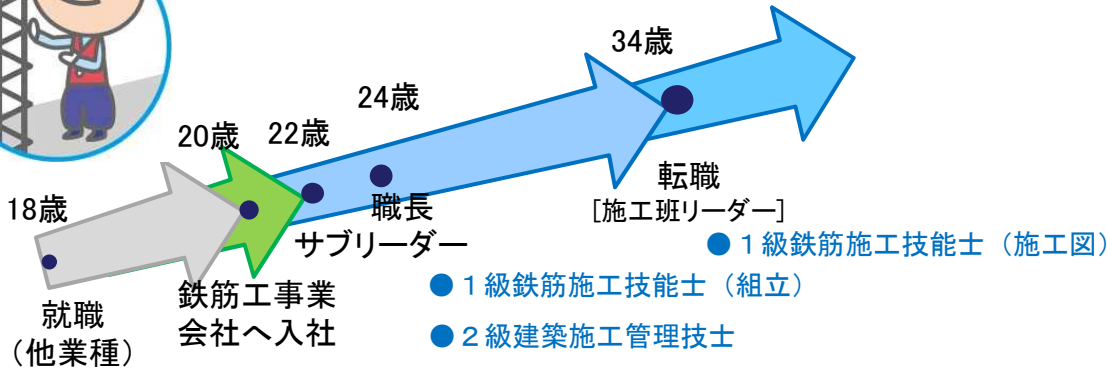
Kitajima  
**北嶋**

Kazunori  
**和典**

## 鉄筋職人

早川鉄鋼販売株式会社 職長

職歴18年  
(昭和54年生・37歳)



### 技能者のまとめ役として

【これまでのキャリアパス】

木造大工に憧れて工業高校の建築科に入りましたが、車やバイクも好きで卒業後は自動車修理工場へ就職しました。その頃のお客様で鉄筋職人と知り合い、2年目に転職しました。

最初の1年は見習いでしたが、徐々に楽しくなり、どんどん仕事を覚ええました。興味を持つと先輩も熱心に指導してくれて、仕事を任されるようになって嬉しかったことをよく覚えています。鉄筋加工図が読めるようになると、ますます鉄筋工事が面白くなりました。

2年程でサブリーダーになり、4年目から職長を任されました。その後、1級技能士や2級建築施工管理技士等の資格を取得して、将来の独立も考え始めた頃に、現在の会社から現場技能職チームを立ち上げたいとの誘いがあり、自分のスキルアップにもなると思い、技能者のまとめ役として入社しました。

現在は12名の技能者の配置、加工図の作成や拾いなどの職長業務を担当しながら、現場では主任技術者として元請との調整等の役割を担っています。

### 工業化が進んでも、最後は人間の手でやらなければならない

【現在の仕事の魅力】

鉄筋は人間に例えると骨であり、どれだけ工業化が進んでも最後は人間の手でやらなければならない重要な仕事です。隠れるからこそ丁寧な仕事求められることにプライドを持っています。鉄筋をピッタリと納めた時にはとても充実した達成感があります。

今の技能者チームでは若い技能者も多いので、しっかりとサブリーダー、リーダーを育成してチームを大きくしていきたいと考えています。

### やる気と実力があれば認めてもらえる業界

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

やる気と実力があれば年齢に関係なく周囲からも認めてもらえるので、意気込みが強い人ほど肌が合う業界だと思います。

若い人をどう育成するかは勉強中ですが、工作中、休憩中を問わず、いつでも教えられるよう体制を整えています。興味があれば、ぜひ現場を見てもらえるようにしていきたいと考えています。



30代後半の入職から3年で独立、60歳代で正社員（OJT指導担当）として鉄筋工事業会社へ入社。

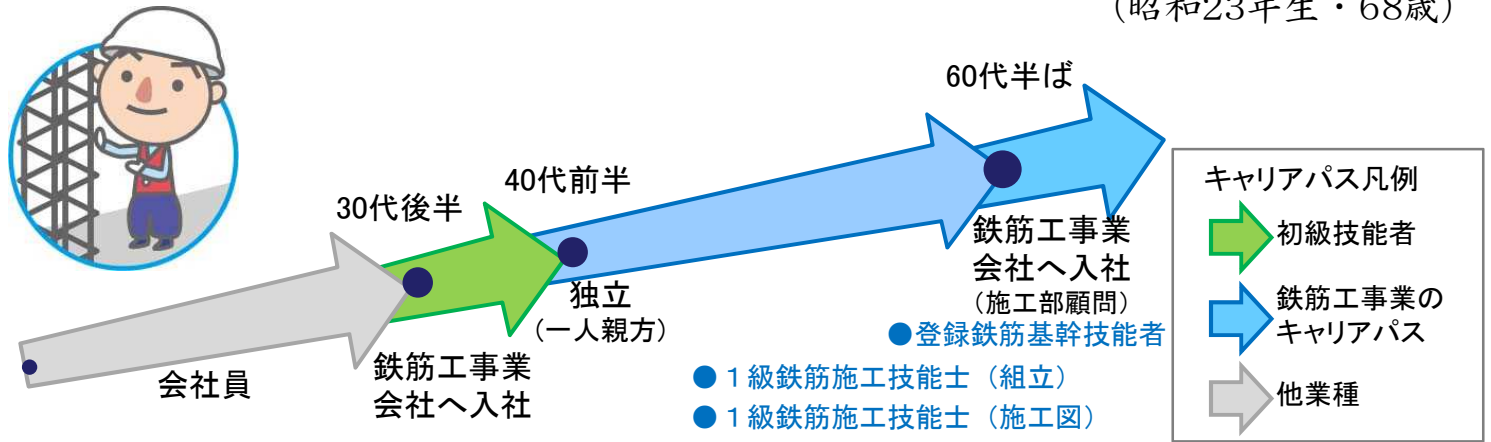


Sakamoto Shinobu  
**坂本 仁**

高齢者活用 **鉄筋職人**

株式会社小黑組 施工部 顧問（若手のOJT指導を担当）

職歴30年  
（昭和23年生・68歳）



## 会社員から鉄筋職人へ

【これまでのキャリアパス】

### 子どもの頃の夢であった「ものづくり」への思い

若い頃は会社員をしていましたが、40代を目前に会社と折り合いがつかずに離職しました。次の仕事を考えていた時、子供の頃の夢であった建設業やものづくりへの思いから、親戚が営む鉄筋工事業の会社に入社しました。

入社後2ヶ月程は知識もなく、大変でした。しかし、周囲を見ると当時30代後半の自分よりも年上の職人ばかりという状況であったため、自分にもチャンスがあると考え、一生懸命に頑張り、3年で独立しました。

### 個人事業主から、再び会社員として若手の指導にあたる

個人事業主として独立後、自分のような多くの技能者が一人親方となっている産業構造に対して危機感を感じるようになっていたところ、現在の会社から若手技能者を正社員として雇用・育成するため指導してほしいという話を受けて入社し、若手技能者の指導を担当しています。

## 若手が成長する姿を見るのがうれしい

【現在の仕事の魅力】

年齢と共に、体力と力が落ちてきて昔はできたことができなくなってきたことに寂しさを感じますが、若手技能者の育成は、社会的にも重要だと感じるため、やりがいはとても大きいです。特に若手が成長して自分で作業が出来る姿を見るとうれしく感じます。

## 鉄筋職人は夢のある仕事

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

鉄筋職人は自分の力で社長になって稼ぐこともできる夢のある仕事です。しかし、一般の人には認知度が低く、印象も良くないため鉄筋職人を目指す若者も少ないのではないかと感じています。

鉄筋職人に対する世間の印象を変えていきたいという思いから、若者の立場になって考え、技能・技術はもちろん、服装や言葉遣いなどのマナーも意識して指導に取り組んでいます。

一度は他業種に転職したが、再び鉄筋技能者に。  
61歳の時、瑞宝単光章を賜る。



Kawabata  
**川畑**

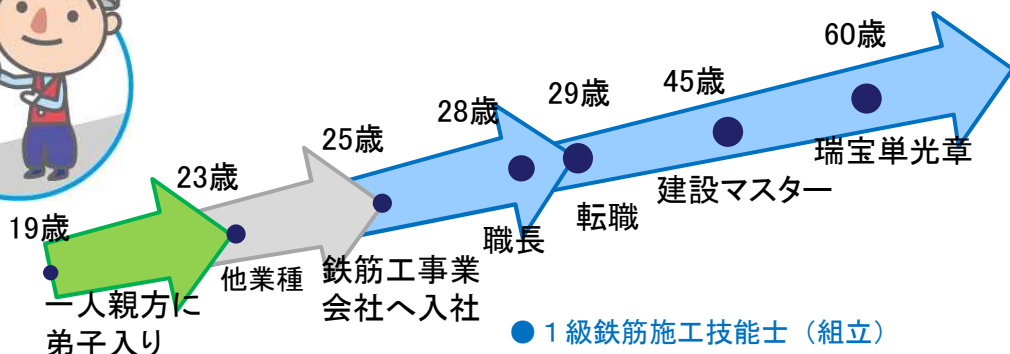
Suenori  
**末徳**

高齢者  
活用

**鉄筋職人**

株式会社西村工業所 職長

職歴45年  
(昭和25年生・66歳)



キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 鉄筋工事業の  
キャリアパス

➡ 他業種

### 鉄筋技能者として、瑞宝単光章を賜る

【これまでのキャリアパス】

一度他の業界に転職したが、再び鉄筋技能者の道を選択した

鉄筋職人である親戚から誘われ、全く未知の業界でしたが、19歳で入社しました。一度他業界に転職しましたが、建築物を作るという魅力や収入の良さから、結婚を決めた25歳で再度鉄筋の職人となることを選択しました。28歳頃、職長となり、自分で施工図作成、加工、組立ての一連の流れを任せてもらい、思い通りに組めた時に大きな喜びを感じました。

研修を通じ、現場に必要な多くのスキルを身に付ける

入社後4年ほど経験を積み、29歳の時に請負先であった現在の会社に移りました。様々な研修に参加する機会も多く、技能以外にもコミュニケーションや現場のまとめ方など、現場に必要な多くのスキルを身に付けることができました。また、平成8年に建設マスター、平成23年に瑞宝単光章を賜るなど、職人として自分の仕事を誇りに思える機会にも恵まれています。現在は職長・主任技術者として現場で鉄筋を組みながら、チェックシート等を用いた品質管理や若手の指導を行っています。

### 多くの仲間と建設技術の最先端で働くことができる

【現在の仕事の魅力】

現在の鉄筋工事業は、昔と異なり、鉄筋ユニットを組んで施工するなど、安全や省力化に対する技術革新が進んでいます。そのような技術を用い、施工前からゼネコンに対して提案が行えるなど、現場作業以外の仕事も重要になっています。そのような建設技術の最先端で働けることが大きな魅力だと思います。また、建設現場には鉄筋工事業以外にも多くの職人がおり、一緒に建築物を作った仲間たちに異なる現場で再会できることも大変魅力的だと感じています。

### 安心して仕事ができる環境づくりへの取り組み

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

現在、建設業界は社会保険加入を推進しており、皆さんが安心して仕事ができる環境づくりに取り組んでいます。私が若い頃は一日いくらという世界でしたが、近年病気で休職せざるを得なかった時に社会保険の重要性を改めて認識しました。

また、現在の建設現場は産業廃棄物等の取り組みも世の中の最先端であり、とてもきれいです。中でも鉄筋工事業は最新の建設技術、多くの仲間達とともに、建築物を作っていく仕事であり、日々変わっていく現場は飽きを感じない魅力的な仕事だと思います。鉄筋工事業について、もっと知りたいと考えています。



職歴47年。現在も職長として現場を統括する。



Saito  
**齋藤**

Masaharu  
**将晴**

高齢者  
活用

## 鉄筋職人

株式会社西村工業所 職長

職歴47年  
(昭和23年生・68歳)



19歳

鉄筋工事業  
会社へ入社

22歳

48歳

職長

60歳

前会社の解散  
を機に転職

キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 鉄筋工事業の  
キャリアパス

➡ 他業種

### 鉄筋工事に関する知識もないまま就職した

【これまでのキャリアパス】

#### 躯体図通りに鉄筋を納められたとき、一人前になったと感じた

現在の会社の下請に勤めていた友人を頼って上京し、鉄筋工事に関する知識もないまま19歳で就職しました。入社して半年後、親方に仕事を誉めてもらい、焼き肉に連れて行ってもらいました。そのとき「頑張ればこの仕事で飯を食べる」と思い、仕事に励みました。見習いとして3年程経験を積み、躯体図を見て図面通りに納めることが出来た事で、一人前になったな、と感じました。

#### 前会社での職長としての経験を活かし、職長業務に加え、品質管理と若手指導を担う

30年ほど前に1級技能士（組立）を取得、20年ほど前から職長として現場の統括を任されていました。しかし、7年前に前会社の解散を機に、請負先であった現在の会社に職長として入社しました。現在は現場で鉄筋を組みながら、職長として自分のチームをまとめ、自社のチェックシート等を用いた品質管理や若手の指導を行っています。

### 品質チェックの徹底と、若手の育成に力を入れていきたい

【現在の仕事の魅力】

印象に残っている仕事はたくさんありますが、発電プラントのタービン架台です。特に難解で難しい工事であり、機械メーカーとの調整など多くの困難がありましたが、やり遂げた時に大きな達成感を得ることが出来ました。

現在は職長として責任のある立場で仕事をしており、他の職人よりも厳しい品質管理を行っていると思っており、それがやりがいにもなっています。

今後は完璧な品質チェックを心がけ、後輩の指導等にも力を入れていきたいと考えています。

### 職人の世界も、一般の企業と変わらない

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

鉄筋工事業の魅力を一言で表すのはとても難しいですが、建築物が建っていく様々な段階でその魅力を感じられ、特に完成時には大きな感動があります。

職人の仕事に対しては厳しい、怖いというイメージがあると思います。しかし、実態は一般の企業と変わらず、会社として教える体制が整っています。また、空調服など、働きやすい環境を整える工夫にも取り組んでいます。怖がらずに飛び込んできて欲しいと思っています。

ゼネコン・職人等、幅広い建設業のキャリアを活かし、鉄筋工事業全体を見渡して指導する



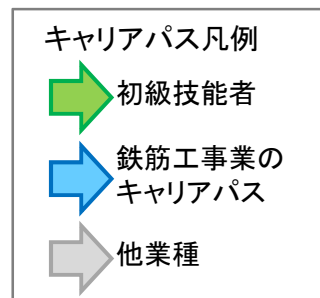
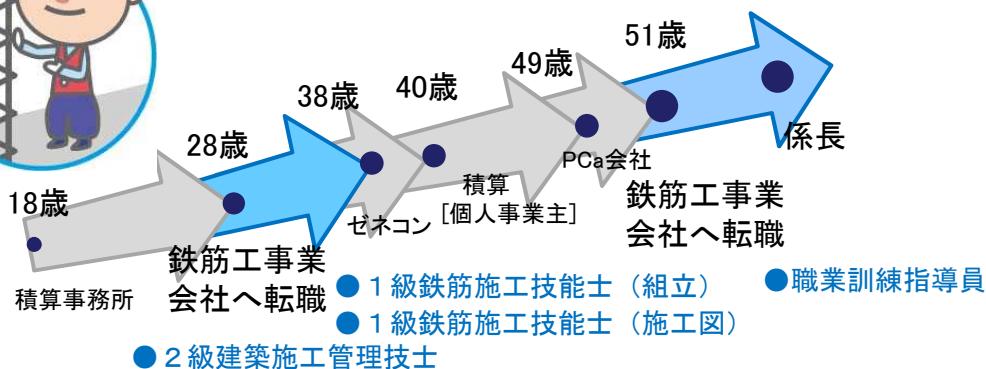
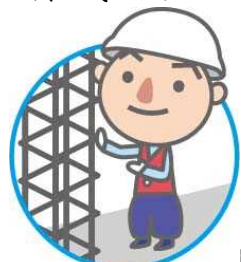
Mitsumaru  
**三丸**

Yoshifuku  
**吉福**

## 工場での加工業務

株式会社小黑組 船橋工場 係長

職歴39年／加工場  
(昭和34年生・57歳)



### 職歴の経験を活かした現場組立と工場加工の架け渡しの役割

【これまでのキャリアパス】

#### 様々な職種を経て、現在の会社に入社した

親が大工であったことから建設業界に興味があり、工業高校建築科へ進学しました。卒業後は積算事務所に就職し、その経験を活かして28歳で鉄筋会社に転職しました。その後、ゼネコンへの出向、個人での積算業務請負、PCa工場での勤務を経て、51歳で現在の会社に入社しました。

#### 職歴の経験を活かし、鉄筋工事全体を見渡した業務について把握・指導する

現在は職長からの加工明細書のチェック、加工場のチェック等を任されています。鉄筋工事業は現場組立と工場加工に分業されており、どちらもお互いの経験が少ないことから、全体を通じて把握できる人材は限られています。これまでの職歴の経験を全て活かし、両者の架け渡しをしながら教える役割を担っています。

#### 若い人材を指導し、成長していくことが楽しい

【現在の仕事の魅力】

若い人材を指導する立場であり、彼らが成長していくことにやりがいを感じています。一方で、現場組立と工場加工の分業化が進んだ影響から、鉄筋工事業全体を見通した仕事の流れを教えることの難しさも感じています。また、自分が施工に携わった大学に息子が入学したこともあり、この仕事の魅力を改めて感じています。

今後の目標として、自身の技術力の証明として1級建築施工管理技士の取得を目指したいと考えています。また、会社としては、積算・加工の情報システム化により、若い人にも取り組みやすい効率的な仕事に変えていきたいと考えています。

#### 自分の能力を活かし、提案できる仕事

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

鉄筋工事業は組立だけ、というイメージかもしれませんが、しかし、実際の業務内容は多岐にわたり、幅が広く深い仕事です。そして、仕事を通じて手に職をつけ、自分の能力を活かし、施工手順、配筋の工夫など、多くの提案が出来ます。仕事が人生の一部だとすれば、自分の人生を形に残す事が出来る仕事だと思います。



ものづくりの最先端で働きたいという思いから、  
36歳の時、ゼネコンから転職する。



Ando Masato  
**安藤 理人**

**品質管理担当**

株式会社小黑組 品質検査部 次長

職歴10年／品質管理  
(昭和45年生・46歳)



20歳

[現場管理]

36歳

鉄筋工事業  
会社へ転職

46歳

品質検査部 次長

総合建設業

- 1級建築士
- 1級建築施工管理技士
- 1級土木施工管理技士

- 1級鉄筋施工技能士 (施工図)
- 1級鉄筋施工技能士 (組立)

キャリアパス凡例

- ➡ 初級技能者
- ➡ 鉄筋工事業のキャリアパス
- ➡ 他業種

## ものづくりの最先端である鉄筋工事業

【これまでのキャリアパス】

### 高度かつ専門的な知識を必要とする鉄筋工事

20代で総合建設業（ゼネコン）に就職し、現場監督を務めていましたが、ものづくりの最先端である鉄筋工事業で働きたいと考え、36歳の時に技術者として転職しました。

前職では現場を統括する所長も経験していましたが、鉄筋工事では、より高度かつ専門的な知識を求められ、最初は全く分からない状況でした。過去の構造図を読み込み、鉄筋工事の理解を深め、2年ほどで社内の職人と対等にやりとりできるようになりました。

### 品質検査とともに、若手の育成に力を入れる

現在は4人体制の品質検査部を統率しており、自社が施工した現場の配筋検査を行いながら、若手に対して作業上の注意点の説明など、育成にも力を入れています。また、鉄筋工事業組合の活動にも関わっており、出前講座等で鉄筋の指導をするために1級技能士の資格を取得しました。

### 現場の構造図の進化に自分も応えていきたい

【現在の仕事の魅力】

鉄筋工事は社内検査の後、管理者、監理者、役所等の立ち会い検査があります。その検査時に質疑等にきちんと応えられ、クリアした時には達成感があります。同時に、一緒に立ち会う職人にも波及効果があり、会社として技術力が上がっていることが感じられます。

今後の目標として、現場の構造図は常に進化していることから、それに応えられるように自分や品質検査部の技術力を高めていきたいと考えています。

### 本当の「ものづくり」に関わることが出来る

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

現在の総合建設業における技術者の主な役割は、現場管理業務です。本当の「ものづくり」に関わることが出来るのは、鉄筋工事業をはじめとする専門工事業だと考えています。

コンクリートに埋まってしまう鉄筋は建物が完成すると見えなくなってしまうことから、世間一般の認知度は決して高いとは言えません。しかし、建築物を数十年支える構造体に関わることは、やりがいのある仕事だと日々実感しています。

15歳で一人親方に弟子入り。  
鉄筋工事会社に入社し、500人の職人を統括する。



Hidaka

日高



Manabu

学



統括部長

株式会社小黑組 営業工事部 統括部長

職歴29年／部長  
(昭和47年生・44歳)



15歳

一人親方に  
弟子入り




26歳

鉄筋工事業  
会社へ転職  
[営業工事部]

- 1級鉄筋施工技能士（組立）
- 1級鉄筋施工技能士（施工図）
- 登録鉄筋基幹技能者

主任 工事長 統括部長

キャリアパス凡例

-  初級技能者
-  鉄筋工事業の  
キャリアパス
-  他業種

### 自分を頼りにしてくれる職人の気持ちに応えたい

【これまでのキャリアパス】

#### 専門工として経験を積み、現在の会社に就職した

中学校卒業後、鉄筋工の親方の下、専門工として経験を積みました。現在の会社とは元々仕事を請けるなどの交流があり、社長から誘われる形で入社しました。

入社後は営業工事部の社員として、元請（ゼネコン）との折衝、協力会社への仕事分配や情報伝達などを担当し、会社として工事が上手くまわるように気を配っています。

#### 自分を頼りにしてくれる職人がいる

元請（ゼネコン）と協力会社との間で板挟みになる役割であり、仕事を通じてのストレスが辛かったことから、解雇を覚悟で一週間欠勤しました。その時、協力会社の親方や職人さんから励ましの電話をもらい、自分を頼りにしてくれる親方や職人の気持ちを考えると諭されました。それを機に、仕事に取り組む姿勢や意識が変わり、現在は統括部長として会社の請け負う仕事のマネジメントを行っています。

### 関わる人たちにきちんと利益が生まれる仕事をしたい

【現在の仕事の魅力】

自分の仕事は自社に留まらず、元請（ゼネコン）、協力会社の3者を含めて円滑な施工体制をつくることです。関わる三者がきちんと利益が生まれ、ありがたいと言われる仕事が出来た時には大きな達成感が得られます。また、実際に建築物が竣工した際にも大きな達成感があります。特に、公共的な建築物は強く印象に残っています。

今後の目標として、これからは自分たちの世代が軸になっていくことが求められています。同世代の親方達と60歳を過ぎても笑顔で仕事を続けたいと思っています。また、若い人も元気に成長出来るよう、サポートしていきたいと思っています。

### 精神論にも必要な部分、重要な部分を伝えたい

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

自分が若い頃は「気合い・根性」のような精神論で鍛え上げる世界でした。しかし、最近の若い人には響かない言葉になってきていると強く感じており、若い人の性格や考え方に合わせて言葉を選りながら指導しています。また、自身の経験から精神論の必要な部分、重要な部分も伝えていきたいと考えています。



経験1年程で職長。転職を経て8~15現場、  
80~120人の職人を束ねる部長に。



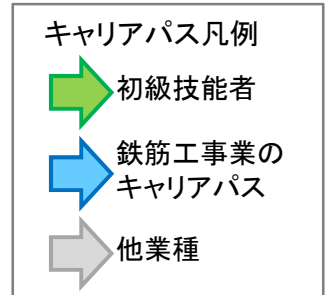
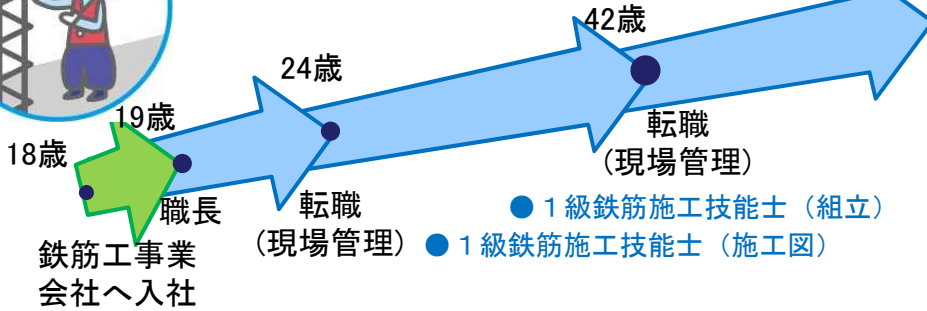
Ota Wataru

大田 弥

工事部部长

永和産業株式会社 工事部部长

職歴34年 / 安全・品質管理  
(昭和39年生・52歳)



### 得意な製図を軸にして職人から現場管理へ

【これまでのキャリアパス】

工業高校の機械科に通っていましたが、通学路から見た建設現場が日々変わっていくさまから建設業に興味を持ちました。製図が得意だったので、作図で募集していた鉄筋工事業に就職しました。

最初は何も知らないで、現場で1年間組立の仕事から始めました。19歳の半ばに小さい現場で職長を担当し、やり切れたことで自信が付き、現場と並行して数量拾いなどを覚えていきました。

職長を経験して、鉄筋工事の現場管理に進みたいと思い、24歳で転職、配筋図や納まり図の作成を担当して、鉄筋工事図面を学びました。平成7年に1級技能士(施工図)、平成8年に1級技能士(組立)を取得し、現場管理を主に担当していました。42歳で再度転職し、引き続き経験を活かして現場管理を任されています。

現場管理とは安全や品質に関するマネジメントで、常時8~15現場くらいを担当しています。元請との工期や工事金額に関する調整とともに、80~120人の技能者の編成等を行っています。

### 現場管理で現場の安全と品質を高めたい

【現在の仕事の魅力】

専門工事業という現場作業のイメージだと思いますが、自分の役割は現場管理で、予算通りに工事が完了したり、立ち会い検査等で指摘なしを頂いた時などにはやりがいを感じます。

今後は安全に対する管理をより徹底し、周知化することで、事故等の労働災害を起こさないようにしていきたいと考えています。また、職長と議論しながら、自主検査を強化してより良い施工が出来るよう、品質を高めたいと考えています。

### 安心して就職できるよう、受入れ体制は出来ています

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

鉄筋工事業を始め、建設業界では、現在社会保険等の整備に関する取り組みを推進しています。

また、高校への出前講座等も実施しており、興味を持ってもらえば鉄筋工事業に関する情報に触れる機会も多くあります。不安に思うことは質問してもらえれば、きちんと説明させて頂くなど、皆さんが安心して就職できるよう、受け入れる体制は出来ています。

21歳でゼネコンへ出向、  
50歳で出向元へ専務取締役として帰任。

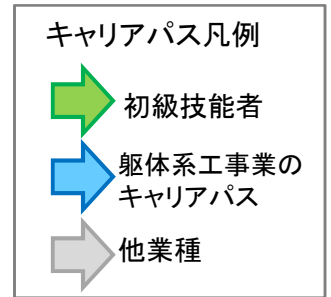
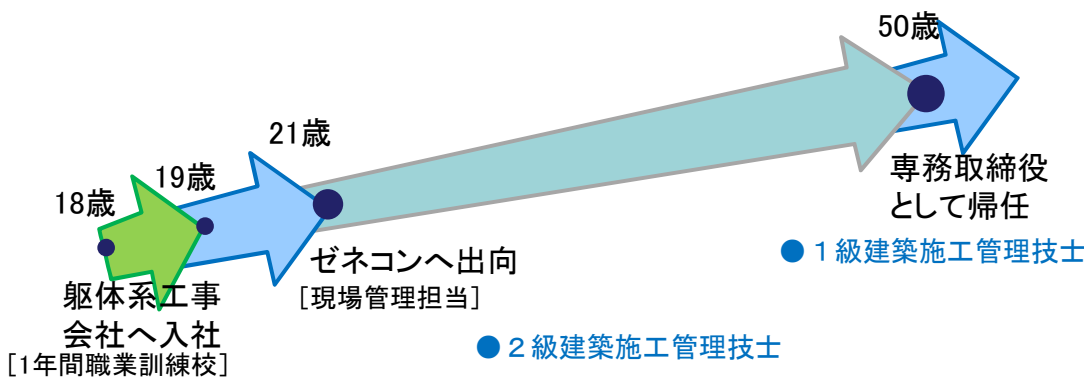


Mori Katsuyuki  
**森 克幸**

**専務取締役**

株式会社マルチビルダー

職歴32年／役員  
(昭和41年生・50歳)



### 技能・経験を活かして積極的に現場管理が出来た

【これまでのキャリアパス】

会社に直訴し、現場管理担当としてゼネコンに出向した

コンクリートや鉄骨の建築物に興味がありました。工業高校3年の時、躯体工事会社の求人票があり、調べてみるとものづくりに関わる仕事で、自身の希望とマッチする仕事だと思いました。入社後1年間は企業内職業訓練校での教育訓練、2年半の現場作業を経験し、21歳で会社に現場管理をやりたいと直訴しました。

当初は1年間の予定でゼネコンに出向しましたが、そこから29年現場管理を担当させてもらい、平成28年に専務取締役として帰任しました。

監督の指導のもと、他業種の作業の管理を学ぶ

型枠・鉄筋・仮設の多能工であったため、躯体工事は臆することなく技能者達と対等に話すなど、積極的に管理が出来ましたが、他業種の作業管理は知識がなかったため、大変でした。現場監督の指導のもと、知識や管理方法を学び、29歳で一人で現場を任せられることが出来ました。

現在は出向期間の経験や人脈を活かし、仕事の受注営業や元請視点での安全・工程等の見直しなどを担当しています。

### 新しいことに挑戦していきたい

【現在の仕事の魅力】

ものづくりの仕事ですから、任された時の責任感、完成した時の達成感など、仕事を通じたやりがいをととても感じます。自身の経験では、2年目に同期社員のみで躯体工事を施工した物件や、監督として一人で現場を任された仕事を良く覚えています。

現在の立場は手探り状態ですが、社員が安心して働き、暮らせる環境をつくりたいと考えており、会社として安定した利益が確保できるようにしていきたい。業務内容もかつての在来工法からPC工工事比率が高くなっており、またリフォーム工事や改修修繕工事への期待も大きいことから、新しいことにどんどん挑戦していきたいと考えています。

### 専門工事業を入り口とした多様なキャリアパス

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

現場管理として働く人の中にも、専門工だった方はたくさんいます。また、現場での経験や他職種との係わりなどから、自分に合った職種が見つかることもあり、実際に様々なキャリアパス事例があります。専門工事業の仕事は決して楽ではないですが、そこを入り口にして得意分野を持つことは強みにもなり、その後のキャリアパスの幅を広げることにつながります。



19歳で一人親方に弟子入り、  
49歳で法人化し、代表取締役社長となる。



Ebara

Hiroshi

江原

浩

## 鉄筋職人

株式会社江原鉄筋工業 代表取締役社長

職歴31年／法人経営  
(昭和41年生・50歳)

(小黑組協力会社 職長)



19歳

28歳

35歳

49歳

一人親方に  
弟子入り

[労務管理]

● 1級鉄筋施工技能士(組立)

[原価管理]

● 登録鉄筋基幹技能者

法人化  
代表取締役社長

キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 鉄筋工事業の  
キャリアパス

➡ 他業種

経営管理・現場管理をしながら、現場の最先端で鉄筋を組む

【これまでのキャリアパス】

鉄筋の仕事が身近にある環境

父が鉄筋の技能者であり、小黑組の加工場で働く親戚もいたことから、子どもの頃から鉄筋の仕事が身近にある環境でした。自分も建築の仕事に興味を持ち、大学の建築学科に進学したが、19歳の頃に鉄筋職人を目指す決意をし、中退して鉄筋職人の道へ入りました。

会社経営と鉄筋職人という二足のわらじ

一人親方であった父の元で技能の他、労務管理、原価管理の管理業務を修得し、平成27年に社会保険等に加入する企業として法人化しました。現在は弟と経営管理、現場管理を分担しながら、自身も現場で鉄筋を組み、職長として現場をまとめています。

鉄筋工事業はチームワークが重要

【現在の仕事の魅力】

鉄筋工事業は、自分の会社だけでなく、他の鉄筋職人、とび職や型枠工事業など、多くの人とのチームワークが重要になります。そのチームワークの成果として、現場で鉄筋を組み上げた時には大きな達成感があります。特に地元での仕事に多く携わってきたこともあり、自分の仕事を子ども達に見せられることを誇りに感じています。

一方で、残念ながら鉄筋はコンクリートの中に埋まってしまうため、一般の方の認知度は低いと感じています。仕事の魅力を伝えるとともに、多くの人に知ってもらう機会を増やしていくことが重要だと感じています。

皆が歓迎してくれる業界

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

鉄筋工事業だけでなく、専門工事業全体が若者の皆さんにとって就職先の候補となり得ないほど、認知度が低いと感じています。業界全体として、社会的な役割と魅力を発信していく取り組みを重ねていく必要があります。

そして、私は皆さんと一緒に働いてみたいと思います。もし、少しでも興味を持っている若者がいれば、ぜひ門を叩いてみて下さい。皆が歓迎してくれるはずです。